

「とよっぴー農園」を活用した 農体験と食育活動

(セブン・イレブンみどりの基金公募事業)

活動報告書

2008（平成20）年2月10日

特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ 21
花と緑のネットワークとよなか

はじめに

本報告書は、「セブン・イレブンみどりの基金」公募助成の採択を受けて実施した活動をまとめたものである。

豊中市では現在、学校給食の野菜くず及び児童の給食食べ残し並びに市内から排出される街路樹等の剪定枝を混合させて堆肥（愛称「とよっぴー」という。）を製造する事業を展開している。

本事業は、製造責任を行政が担い、製品となった堆肥（正式には土壌改良材）を活用して、多様な活動は市民が担うという、協働とパートナーシップの観点に立脚している。

この間、堆肥を活用した農業者による作物栽培、地域コミュニティを形成するための花いっぱい運動、家庭での堆肥化を促進するための資材、市民農園での活用など、有機性資源である生ごみや剪定枝を再生利用することを通じ、地域内資源循環の取り組みを進めてきた。

また、堆肥化事業施設に併設した実験農園（「とよっぴー農園」という。）において作物栽培を行い、堆肥の有効性を確認するとともに、作物の栽培を、地域の保育児、園児、小中学生さらには幼児と保護者並びに大人等、世代間にこだわらないで、農体験ができる活動を進めてきた。

今般、これまでの活動経験を踏まえ、さらには昨今、焦眉の課題となっている「食育」のあり方を展望して「とよっぴー農園を活用した農体験と食育活動」の取り組みを実施してきたが、作物の植え付けから、草刈（雑草除去）、収穫等一連の経験は、自然や大地に触れることはもちろん、土中の微生物類の存在の新たな発見に加え、収穫された作物を食することによって、大地の恵みを享受できる貴重な体験を、多くの参加者に与える成果を得ることができた。

食の荒廃が叫ばれている。食は幼少児の成長にとって非常に大切なことである。しかしながら、多くの作物類を含む食品が、輸入に依拠している日本の食事情の現実、食の貧困とともに食に対する興味・関心あるいは食への感謝を形骸化・希薄化させているといわざるを得ない。

このような状況を考慮して実施した活動は、参加者から大変な好評をいただき、また、幼少児の目の輝きや初めての体験での驚きの声を見聞したが、生きた教材の提供と、現場体験という場の提供を通じて初期の目的を十分に達成したと確信するものである。

ここに、活動全体の報告書を発行することで、助成基金の採択への感謝の意を表すものである。また、豊中市緑と食品のリサイクルプラザ関係者並びに活動に際し、多大のご協力を得た関係各位に、改めて感謝したい。

—目 次—

○はじめに

○ご挨拶

○活動記録

1. 活動の経過一覧表

2. 活動の経過とその特徴

3. 参加者の感想文の抜粋

4. 活動状況の写真

5. 報道記事の転載

○「第2回とよっぴー祭り」の総括報告書

○3Rフォーラムの開催内容の概要

○活動全体の総括

○資料

○あしがき

1. 活動記録一覧

	実施日	参加団体	内容	参加人数		スタッフ数
				子ども	大人	
1	3月9日(金)	じゃがいもっ子ひろば①	プラザ農園でじゃがいもの植え付け	14	13	7
1回	3月			14	27	7
2	4月13日(金)	じゃがいもっ子ひろば②	プラザ農園でじゃがいも畑の芽かき作業	3	3	3
1回	4月			3	3	3
3	5月2日(水)	原田小5年	プラザ農園でかぼちやの種まき、枝豆の種まき	96	6	6
4	5月11日(金)	じゃがいもっ子ひろば③	プラザ農園でじゃがいも畑の手入れ	9	9	5
5	5月15日(火)	東豊台小1・6年	東豊台小学校で環境授業	140	5	2
6	5月16日(水)	仏光幼稚園年中組	プラザ農園でじゃがいも畑の草抜き	55	6	4
7	5月18日(金)	豊島西小5年	豊島西小学校で環境授業	80	2	2
8	5月19日(土)	ボーイスカウト第17団	プラザ農園でさつまいもの苗の植え付け	5	6	7
9	5月21日(月)	原田保育所	プラザ農園でさつまいもの苗の植え付け	25	4	4
10	5月21日(月)	スタッフ	橋本農園で学校給食納入用の玉ねぎの収穫	—	1	9
8回	5月			410	39	39
11	6月1日(金)	原田小5年	原田小学校で地産地消の話	96	3	2
12	6月1日(金)	蛭池小4年	蛭池小学校で環境授業	75	14	2
13	6月5日(火)	桜塚小6年	桜塚小学校の屋上菜園の土壌の入れ替え	73	3	1
14	6月7日(木)	少路小5年	少路小学校で田圃の田起こし	178	5	1
15	6月7日(木)	原田小5年	プラザ農園で玉ねぎ収穫	96	3	3

16	6月11日 (月)	少路小5年	少路小で田植え	178	5	1
17	6月13日 (水)	仏光幼稚園年中組	プラザ農園でじゃがいもの収穫	55	6	7
18	6月19日 (火)	原田小PTA	プラザ農園でさつまいも畑にマルチ掛け	—	4	6
19	6月22日 (金)	少路小5年	少路小学校で環境授業	178	5	5
20	6月26日 (火)	じゃがいもっ子ひろば④	プラザ農園でじゃがいもの収穫	11	11	4
21	6月29日 (金)	桜塚小5年	桜塚小学校で環境授業	73	4	2
11回	6月			1013	63	34
22	7月11日 (水)	東豊台小5年	東豊台小学校で環境授業	78	4	3
23	7月12日 (木)	原田小5年	原田小学校で環境授業	96	3	3
2回	7月			174	7	6
24	8月10日 (金)	野田保育所・服部保育所	プラザ農園でかぼちゃの収穫	39	6	4
1回	8月			39	6	4
25	9月1日(土)	とよっぴー農園塾	とよっぴー農園で農作業体験	1	8	2
26	9月4日(火)	原田小5年	プラザ農園で枝豆収穫	96	3	3
27	9月6日(木)	大池小全学年	大池小学校で環境授業(校内放映)	710 (校内放映)	—	2
28	9月7日(金)	緑地小4年	緑地小学校で環境授業	114	4	3
29	9月14日 (金)	原田保育所	プラザ農園でじゃがいも植え付け	29	4	3
5回	9月			240 (別に710)	19	13
30	10月2日 (火)	少路小5年	少路小学校でわら細工の指導	37	1	2

31	10月4日 (木)	原田小3年	原田小学校で環境授業	90	4	2
32	10月5日 (金)	少路小5年	少路小学校で稲刈り	178	5	3
33	10月13日 (土)	とよっぴー 農園塾	プラザ農園で大根・じゃがいも畑の手入れ	6	7	2
34	10月16日 (火)	ほっぺ	幼児の育児サークル プラザ農園で芋ほり	130	110	3
35	10月16日 (火)	桜塚小6年	桜塚小学校でさつまいも掘り	75	4	2
36	10月18日 (木)	原田保育所	プラザ農園でさつまいも掘り	34	4	4
37	10月19日 (金)	とよっぴー 祭り実行委員会	プラザ広場でとよっぴー祭りの準備・テント設営	—	—	9
38	10月19日 (金)	とよっぴー 祭り実行委員会	サロンでとよっぴー祭り準備・事務関係	—	—	7
39	10月20日 (土)	とよっぴー 祭り実行委員会	とよっぴー祭り	550	650	26
40	10月23日 (火)	原田小3年	プラザ農園でさつまいも掘り	90	4	4
41	10月24日 (水)	とよっぴー 倶楽部	プラザ農園でさつまいも掘り	—	15	3
12回	10月			1190	804	67
42	11月8日 (木)	仏光幼稚園	プラザ農園で玉ねぎの植え付け	54	9	4
43	11月12日 (月)	北丘小3年	北丘小学校で環境授業	78	3	2
44	11月23日 (金)	とよっぴー 農園塾	大根・じゃがいもの収穫	15	5	3
3回	11月			147	17	9
45	12月18日 (火)	東豊台小5年	東豊台小学校でお米の話し	78	2	2
1回	12月			78	2	2
46	1月11日	少路小2・5年	少路小学校で収穫した米	360	11	2

	(金)		で七草かゆ			
47	1月17日 (木)	原田保育所	原田保育所で環境授業	22	2	2
2回	1月			382	13	4
48	2月5日(火)	東豊台小5年	東豊台小学校でお米の話 し	78	2	2
1回	2月			78	2	2
計 48 回				3768 (別に 校内放 映 710 人)	1002	184 人
				4785 人		

2. 活動の経過とその特徴

1. 申請の趣旨と実際の活動に関して

活動助成の申請に際し、「とよっぴー農園」を軸とした農体験事業に加え、地産地消及び学校菜園における栽培支援と協働作業の展開を通じて食育の意義を、幼少児や保護者並びに大人「農園塾」を巻き込んで自覚的に習得できるような多様で多面な事業の構築を目論んだ。

したがって、以下の報告は、①緑と食品のリサイクルプラザ「とよっぴー農園」における体験活動（「農園塾」含む） ②地産地消としての市内農業者との連携活動 ③学校菜園を利用した作物などの栽培支援による子ども達との触れ合いと協働の作業 ④食育の一環として環境教育授業の実施 など、すべて実施した事業を網羅することに務めた。

事業の集大成である「とよっぴー祭り」及び「3Rフォーラム」並びに「活動報告会」は別途、稿を起こして記述している。

2. 報告の体裁

報告書は、前述の活動報告一覧表に基づいて、日時、対象、参加者数、活動の特徴、広報・日刊紙などの記載、写真添付番号、参加者の感想の抜粋 などについて記述している。

なお、広報・日刊紙、写真（基本的に一活動に一葉）は、本稿の末尾に一括添付している。感想文は各活動の末尾に記述している。

3. 個別活動の経過及び特徴的事象

以下、実施日順に記述する。

(1) 3月9日（金） 時間 10:00～11:30

じゃがいもっこ広場の初日（最初の参加日）、2・3歳の子ども達と保護者（お母さん）が不安と期待の混じった様子で集合した。それぞれ自己紹介の後、各自名札を胸に付けて堆肥化施設の見学に参加した。その後、ジャガイモの植え付け作業にとりかかる。お母さん達が3等分に種イモを包丁で切り、イモに草木灰をまぶして5株ずつ30cm間隔で植える作業を行った。竹製で仕上げたオーナー用の名札も子ども達と一緒にマジックで自分の名前やイラストなど、思い思いに畑に挿して、ジャガイモ栽培の準備完了が完了した。

「どんぐり君の冒険」と題する紙芝居と飛行機着陸（現場は大阪国空港の着陸直下にある）の見学など、楽しいおまけもあり、許された時間の中で参加者は満足した。

（注釈：2歳～就学前の子どもと保護者を対象にジャガイモの植え付けを市広報で募集した活動）

*（写真）

(2) 4月13日(金) 時間 10:00~11:30

ジャガイモっこ広場の2回目の活動日であった。ジャガイモから出る芽の選別を行い、元気な芽だけを残して他の芽をかきとる作業(芽かき)を実施し、作業を終えた。1回目でのけ意見もあり、慣れた手つきで作業を行った。

(3) 5月2日(水) 時間 10:30~11:30

地元(現場地区)の原田小学校5年生の3クラスが、総合学習の一環として、大豆(枝豆)の植え付け作業に徒歩で来園した。当日は別の活動で作付けする保育所用のカボチャの苗(種類:えびす・ほっこり・小菊27本)の植え付け手伝うなど、児童は活躍した。

* (写真)

(4) 5月11日(金) 時間 10:30~11:30

ジャガイモっこ広場3回目の活動である。春に植えたジャガイモの観察を行った。すっかり葉っぱが茂り、もう少しで花も見られ順調な育ちに参加者が満足していた。子ども達の畑の歩き方もうまくなった。経験を踏むことの確かさを痛感した。

* (写真)

(5) 5月15日(火) 時間 13:30~16:20

東豊台小学校の兄弟学級の野外活動として1年生1クラス及び6年生1クラスの合計140人が多目的ホールでの「とよっぴー」(堆肥)の紹介と意義を説明した後、学校菜園で農体験の支援を行った。子ども達と一緒に、カゴメ提供の「リリカ」という種類のトマトの苗を植え付けた。異年齢の遊びや関係軸が希薄化しているといわれるが、上級生が下級生に接する状態をつぶさに見て、あながち巷の現実とは乖離がある印象を感じた。

なお、収穫されるトマトは、バザー等の際にピザに使用しているようだ。

* (写真)

(6) 5月16日(水) 時間 10:20~11:40

私立仏光幼稚園(当花と緑のネットワーク賛助会員)の年中組55人(4・5歳)が前年度の3月の年少(3・4歳)際に植え付けしたジャガイモの観察・草抜き・小石拾いに訪れた。園児は自分たちの胸まで茂ったジャガイモに驚きの歓声をあげていた。収穫が待ち遠しい感があった。

(7) 5月18日(金) 時間 10:30~11:20

豊島西小学校の5年生に対する出前授業であった。校内の多目的教室で総合学習として「とよっぴー」の紹介を行い、その中では地産地消(お米の話)の話を中心に説明した。5年生は学校のミニ田圃に「とよっぴー」を入れて田植えをする予定となっている。

なお、体験授業を考慮して稲藁の用途（昔は、蓑・蓑傘など多様な利用）の話をした上で、実際に藁を配布して結ぶ作業を行い、昔の知恵を学んだ。

(8) 5月19日(土) 時間 10:30~11:50

ボーイスカウト17団 「とよっぴー祭り」のための準備でサツマイモの苗300本近くを、事務局スタッフと植え付け作業を行った。

(9) 5月21日(月) 時間 10:00~11:00

地元(現場地区)の原田保育所の子ども達25人が施設見学の後、サツマイモの苗の植え付け作業を行った。保育児の場合、楽しさと、なぜ、このような作業を行うのか、説明を十分に施す必要があり、後刻、保育士を通じて感想を聞きながら、次回への参考に活かす苦勞をしている。

* (写真)

(10) 5月21日(月) 時間 10:00~11:00

市内走井地区にある橋本農園(橋本忠男氏)においてタマネギの収穫作業に協力した。このタマネギは、豊中市小学校学校給食用の食材としてJA北部農協に出荷するためであった。地産地消の具体的な実践として、地域の野菜を地域で消費することは、農業者の意欲や充実感、達成感を醸成する一方で、地域で作物が作られ自分たちの給食献立にのることで、子ども達が地域の農作物生産の状況を知る機会になることから、食育の観点から行っているものである。

(本収穫作業は 豊中市のホームページと大阪日日新聞と読売新聞に掲載された)

* (新聞抜粋)

(11) 6月1日(金) 時間 12:30~13:00

原田小学校5年生3クラスの給食時間に、タマネギを納入した地元の農業者(橋本忠男氏)と事務局スタッフ2人が訪問し、収穫作業の写真を見せながら、子ども達に地元の野菜を提供できる喜びを話した。

子ども達は、食事しながら①なぜ、タマネギという名前ですか ②苦勞されたことはどんなことですか など質問がされ、地域の農業者と子どもの繋がりを深めた。

(本活動に関しては市広報に掲載された。)

(12) 6月1日(金) 時間 10:40~11:20

蛍池小学校4年生75人の児童に総合学習授業を行った。パワーポイントで緑と食品のリサイクルプラザ(堆肥化事業)の紹介の後、「ニンジン君」の紙芝居やクイズ(堆肥になるものなあーに)を行った。また、事務局で日常的に行なっているダンボール堆肥を持ち込み発酵している堆肥を実際に触ってもらうことで、有機物がまさに生きている状態を理解できるように努めた。

(13) 6月5日(火) 時間 8:30~10:30

桜塚小学校の屋上菜園(3階屋上)の復活の取り組みを、教員及び6年生の子ども達と協働で実施した。

同小では、校舎の新設の際に温暖化対策の一環として、屋上に菜園が設置されていたが、鳥類の被害から十分な作物が育たない難点を抱えており、その再生を図るため支援の体制を構築したものである。

当日は、土壌を改良するため、廃土を子ども達がバケツリレーで1階に下ろし、これらの完了後、翌6月6日(5年生)、さらに6月7日(4年生)には、今度は逆に屋上菜園へ土壌改良材などを運んで投入作業を実施した。

3学年の子ども達が自ら汗をかきながら、土づくりに励む光景は感動を呼ぶものであった。

(14) 6月7日(木) 時間 14:00~16:00

少路小学校の5年生180人と一緒に稲作のための準備作業を実施した。同校では、毎年、米づくりを学校菜園で実施しており、今回かかわることとなった。当日、子ども達と一緒に田圃の土だし、田起こし、代掻き作業を行い、稲作の事前準備について学んだ。土起こしてみると、底の部分に粘土が堆積し、手入れが行き届いていた。

(15) 6月7日(木) 時間 13:30~14:30

原田小学校5年生が「とよっぴー農園」でタマネギの収穫体験を行った。この作業は、現場地区の学校であることや、徒歩の距離にあるため、先に大豆の植え付けを行ったが、その生育状況の観察も兼ねて実施したものである。

(16) 6月11日(月) 時間 11:00~12:20

少路小学校での2回目の田植え作業を行った。当日は、JA大阪北部営農指導員の比村太郎氏も来校して、「田植えの要領を説明」を子ども達に行った。とくに、品名「祭り晴れ」(平地米)を無償で提供していただいた。このように学校菜園の活動に際して農協との連携も実現、農体験と食育の輪が広がった。

学校側に熱意が溢れ、子ども達も真剣に作業を行い、取り組みとして充実感がある。

(17) 6月13日(水) 時間 10:00~11:30

私立仏光幼稚園の年中組が3月に植えたジャガイモの収穫作業を行った。土の中から、ジャガイモが出るとわかると、おとなしかった子ども達も興奮、計量すると60kg程度の収穫となって大喜びの一幕となった。

* (写真)

(18) 6月19日(火) 時間 13:30~15:00

以前にサツマイモ畑においてビニールでマルチ掛け作業を予定し、原田小学校のPTAにお手伝いをお願いしていたが、雨のため延期になった関係もあり、当日の参加は4人の保護者にとどまったものの、熱心に作業協力していただき、収穫へ向けた中間作業を整えることができた。

* (写真)

(19) 6月22日(金) 時間 13:00~16:00

少路小学校5年生の6クラス190人を対象に体育館で学習講座(出前)を実施した。内容は「とよっぴー」の紹介、とりわけ、給食残渣のリサイクルについて「ニンジン君」の紙芝居も応用しながら行った。また、当該校は米づくりを実施していることから「米」に焦点を絞った講義とあわせ藁の活用の話をした。

体育館での大勢な授業であったが、私語も少なく熱心に子ども達は聴講した。

* (写真)

(20) 6月26日(火) 時間 10:00~11:00

ジャガイモっ子広場の4回目の活動である。参加11組が2部に分かれて収穫作業に入った。終了後、少々小粒のジャガイモをその場で湯がき、蒸かしイモにして参加者で試食した。当日は曇り日中で、テントも張らずに、楽しいひと時参加者ともども和気藹々の楽しいひとときを共有することができた。

* (写真)

(21) 6月29日(金) 時間 14:10~15:30

桜塚小学校5年生2クラス73人を対象に社会科授業の一環として「米づくり」を中心に講義を行った。

また「とよっぴー」の紹介を行い、土づくりの大切さについて当該校では以前に屋上菜園の復活にあたり、子ども達が大いに活躍した実績があることから、「屋上菜園でなぜ、土を入れ替えたのか」「作物栽培は土づくりがスタート(基本)」と言う講義を行い、あらゆる場でも準備(事前)に重要性を喚起した。

(22) 7月11日(水) 時間 10:45~12:00

東豊台小学校5年生2クラス78人を対象に環境授業を実施した。当日は体育館で「とよっぴー」の紹介を行い、あわせて9月に学校給食の食材納入を予定するモロヘイヤの生育状況の話をした。

環境教育については、どの場面でもPC(パソコン)でのパワーポイント活用を行い、可視的な観点から講座を開講している。担任の教師も非常に熱心で、子ども達もメモを取るなど、良い講座となった。

なお、環境教育についてはどの学校も子ども達はメモを取る習慣がなされていたことを追筆する。

* (写真)

(23) 7月12日(木) 時間 14:00~15:30

当日、あいにく雨天のため原田小学校の子ども達による枝豆の収穫を中止した。その変更として事務局スタッフで収穫を行い原田小学校に届けた。子ども達は自分たちが植え付けた物であり残念がっていたが、その際、枝豆の収穫及び食の循環を記述したチラシを配布した。後日、家族で楽しく食べたことなど感想文をいただいた。

(24) 8月10日(金) 時間 9:50~11:30

市立野田保育所と服部保育所の幼児39人が、堆肥化施設を見学した後、カボチャの収穫作業を行った。収穫重量は合計で100kg近くの量となり、幼児に大変、喜んでもらった。小さな子どもが大きめのカボチャを大事そうに抱く様子は微笑ましかった。

* (写真)

(25) 9月1日(土) 時間 9:30~11:00

「とよっぴー農園塾」の初回の取り組みである。市広報を通じた公募に応じた市民に農作業を体験してもらうことが趣旨であった。他の媒体物を活用しない広報の不足もあって、大人8人の参加にとどまったが、和やかに作業を実施することができた。

農園(3箇所)のうち東農園(一番大きい面積)・西農園(2番目の面積)での作業としてはダイコンの種まきと水遣りを行い、南農園(3番目の面積)では、ジャガイモを植えつけ作業を実施した。

実体験が基本の農園塾ではあるが、土づくりのノウハウ、土と作物の関係、植え付けの留意事項、管理上の注意、など、自らの実践に応用できるように配慮した現場での講義を施し、以降の取り組みにも継続した出席を要請して終えた。

なお、事前段階で小学生の参加の問い合わせもあった。大人に限定しての実施であり、今回は断ったが、幼児は別として小学生以上の場合、親子での参加も塾生の拡大を図る意味では、今後の宿題である。

* (写真)

(26) 9月4日(火) 時間 9:30~11:00

原田小学校5年生が枝豆(大豆)の収穫とジャガイモの植え付け作業を行った。また、サツマイモのつる寄せ作業を実演し、子ども達見よう見まねで手伝いした。

なお、枝豆は一部を大豆にして収穫を予定していたが、3割程度が虫に齧られ期待した収穫ができなかった。収穫量では厳しいが、作物栽培は虫との闘いでもあることを知る機会ともなった。

(27) 9月6日(木) 時間 12:45~13:00

大池小学校では、地場産作物であるモロヘイヤの学校給食の納入に際し、給食時間にあわせ全校児童を対象に校内テレビを活用した環境教育を実施した。

当日、モロヘイヤを生産した農業者（事務局メンバー）が栽培の苦労などを子ども達に語った。

(28) 9月7日（金） 時間 11：00～12：00

緑地小学校4年生を対象に総合学習授業で「食品ごみ」の話と「とよっぴー」の紹介を行う講義を施した。また、授業終了後、子ども達一人一人に事務局が用意したダンボール堆肥の発酵状態を実際に触ってもらい発酵熱の感触を体験させた。

ここでも、有機物が生きている現実、活性化する実態をつぶさに体感することで、食品ごみといえども、土に戻すこととによって資源が循環することを理解する機会となった。

(29) 9月14日（金） 時間 10：00～11：00

市立原田保育所の年長組が、ジャガイモの植え付けを1人4株植え付けた。5月に自分たちが植え付けたサツマイモの苗畑を全員が周囲をまわって成育の状況を観察した。

成長している様相を不思議そうに見つめていた。（当初、9月10日を予定したが雨天のため順延）

(30) 10月2日（火） 時間 14：00～15：30

少路小学校で先に提案していた「藁細工の指導」を実施した。子ども達には初体験であり、なかなかうまくいかなかったが、慣れてくると上手に細工をしていた。

(31) 10月4日（木） 時間 13：00～14：00

原田小学校の3年生105人を対象に「とよっぴー農園」でのサツマイモ収穫のための事前学習会を実施した。スライドを用いて「とよっぴー」と食品ごみの処理の現実などを子ども達に説明した。

また、メロンやナスビなどの野菜類を見せた後、それに関連するクイズを実施し、記憶に残るような環境教育を行った。

(32) 10月5日（金） 時間 10：00～11：00

少路小学校5年生による田圃での稲刈り作業を実施した。20束に束ね、プールにて葉がけを行うなど、収穫体験の醍醐味を味わった。

(33) 10月13日（土） 時間 10：00～11：00

「とよっぴー農園塾」2回目の活動を実施した。当日は堆肥の有料頒布と同時進行となったが、ダイコン・ジャガイモ畑の手入れ作業を実施した。今回は

付添いで訪れた子ども達にも何かの体験をさせようと、管理機を順番にを使って草取りを初めての体験し大喜びだった。

* (写真)

(34) 10月16日(火) 時間 10:00~12:00

豊中市子育て支援課「ほっぺ」事業を支援するものとして「とよっぴー農園」のサツマイモ掘り親子を公募したところ、支援課に大人110人、子ども130人が参加申込みをする盛況な事業となった。

当日を表現するとごったがえした雰囲気を醸し出す取り組み模様であった。都市部では、土に触れる機会も少なく、もちろん作物の収穫も大人も含め多くが経験なく、大いに盛り上がる活動となった。

育児の支援として支援課が実施する事業に貢献できたが、いくつかの課題もあった。

* (写真)

(35) 10月16日(火) 時間 10:00~11:40

桜塚小学校の屋上菜園でのサツマイモ収穫体験と、現場でのサツマイモの由来の説明や生育の状態を評価する学習した。

初めて本格的な収穫であり、子ども達はもちろん、先生達とも支援と学校の活動の成果を共有化することができた。

* (写真)

(36) 10月18日(木) 時間 10:00~12:00

市立原田保育所の子ども達が「とよっぴー農園」で、植え付けたサツマイモの収穫体験を行った。

結構、大きなサツマイモもあり、一生懸命に掘る子ども達の姿は微笑ましかった。

作物栽培は、天候などに大いに左右される。実施に主体側は、参加者に収穫の喜びを感じてもらうには、生産物の生育が根本となる。その点では、納得のいく大きさと量が確保でき関係者は安堵したのが実情である。

(37) 10月19日(金) 時間 13:00~15:00

一連の活動の集約事業として予定する「とよっぴー祭り」会場でのテント設営、機材類の運搬などの前日作業を実施した。途中から大粒の雨に見舞われ中で、作業者はずぶ濡れになりながらテント設営を施した。10月とはいえ肌寒い作業であった。ただし、前回の「とよっぴー祭り」は雨天での開催を経験しており、開催前日が雨降りであったことから、翌日は好天であるとの確信を関係者はもった。

(38) 10月19日(金) 時間 13:00~16:00

豊中市環境情報サロン（事務局）で「とよっぴー祭り」の受付など事務用品の点検と祭りで実施する餅つきの準備（もち米の漉ぎなど）を行い、明日の本番に備えた。

(39) 10月20日（土） 時間 11:00～14:00

「とよっぴー祭り」の詳細は本報告書で別途、詳細な記述をしている。

（ただし、準備時間除く）

*（写真：別途掲載）

(40) 10月23日（火） 時間 9:30～11:00

原田小学校3年生90人が「とよっぴー農園」でのサツマイモ収穫体験と堆肥化施設見学並びに飛行機発着見学を行った。1人で12個も掘った子どももいて、「ラッキー」と大喜びだった。

(41) 10月24日（水） 時間 10:00～11:00

「とよっぴー倶楽部会員」（堆肥化事業の市民応援団として組織している）に対し、サツマイモ収穫の優待受付を実施したところ15人の申し込みがあり、実施したものである。

会員からは「今年は豊作ですか？」との問いや「大きなイモも小さいイモも掘れました。子どもみたいに楽しいですね」との感想も寄せられ、会員に対する活動として、参加者には歓迎された。

(42) 11月 8日（木） 時間 10:00～11:00

私立仏光幼稚園の年中組54人によるタマネギの苗を1本ずつ植え付ける作業を実施した。同時に「ドングリ君の紙芝居」の後、畑の見学とあわせドングリや木の実拾いを現場で事務局と一緒にを行い、楽しんだ。

(43) 11月12日（月） 時間 13:30～14:40

北丘小学校3年生78人に対し、「お米と農業」に関する話について出前授業を行った。スライドを交えて話しすることで、子ども達に理解が深まるよう努めた。

とくに、堆肥化施設の話や豊中の農業並びに珍しい野菜（黄色ナスビ・タカの爪など）の話題も提供し子ども達が興味をそそるよう腐心した。

(44) 11月23日（金） 時間 10:00～11:00

「とよっぴー農園塾」最終会（3回目）の活動であった。9月に種を蒔いたダイコンとジャガイモの収穫を実施した。夏の暑さ（残暑）と雨不足のため不作の傾向だったが、塾生には収穫を喜んでもらった。「作物を育てる苦労が分かった」「ジャガイモ堀は初めての体験だったが、楽しかった」「こんなに野菜

に虫がつき大変とは、思わなかった」などの感想文を寄せてもらった。

初めての農園塾であり、多少の戸惑いもあったが、次への取り組みへの教訓を得ることができた。とくに、市民が作物を栽培してみたいという気持ちが強いことを知ることができた。

(45) 12月18日(火) 時間 11:00~12:20

東豊台小学校5年生78人に「お米と農業」に関する出前授業を実施した。スライドを用いて、お米の価格の変遷や実際の米づくり作業の手順を説明した。

* (写真)

(46) 1月11日(金) 時間 11:00~13:00

少路小学校5年生及び2年生が、自分達で育て、そして収穫したお米を使って「七草かゆ」の試食会を行うため、この間の関係から出席し、一緒に試食して、新米を味わった。

(47) 1月17日(木) 時間 11:00~11:30

市立原田保育所へ9月に子ども達が植え付けたジャガイモ20kgを事務局スタッフが収穫して届けた。その際に、ジャガイモの話と「ニンジン君」の紙芝居を麒麟組の保育室で行った。

(48) 2月5日(火) 時間 11:00~12:20

今回で3回目である。東豊台小学校5年生78人に「お米と農業」に関する出前授業を実施した。スライドを用いて、日本人のお米の消費量や耕地面積量が減り続けているグラフなどお米に関する資料を説明した。米のつく漢字を調べ、日本の文化と深いかわりがあることを知らせた。

* (写真)

3. 3Rフォーラムの報告（新聞記事掲載）

- 1) 実施日：2007（平成19）年10月18日（木）
- 2) 時間：14：00～15：30
- 3) 場所：豊中市・伊丹市クリーンランド会議室（一部事務組合の焼却場）
- 4) 主題：「ごみ減量フォーラム」
- 5) 内容：基調講演「ごみ減量の取り組みの現状」
龍谷大学教授 竺 文彦氏（コーディネーター兼務）

○パネルディスカッション

- ・とよなか消費者協会会長 谷口佳以子さん
- ・NPOとよなか市民環境会議アジェンダ 21
花と緑のネットワークとよなか 理事 中村 義世氏

- 6) 記録：以下に主要な議論を報告（助成事業に関連する部分を記述）

竺教授は、「最初にドイツの分別の事例やごみ処理の実情を説明し、国内の事例として滋賀県甲賀市での生ごみ堆肥化と門真市のリサイクルプラザの活動を3Rの観点から説明」して、パネル討議に入った。

パネルディスカッションでは3人のパネラーが取り組の事例を報告した。とくに、中村は「豊中市における街路樹などの剪定枝と給食残渣を混合させた堆肥化事業を3Rの立場から、市民活動の事例紹介を含め提起」した。

具体的な討議では、3Rの重要性に関して発生抑制をめぐる議論が沸騰、ごみの排出抑制は現実的に困難という立場と、ごみの減量のためには排出段階での市民の取り組みが大事という意見に分かれた。

また、国の3Rに対する法的な不備や姿勢の優柔不断に批判的な意見も出たが、環境問題は国の姿勢も問われるが、市民が自ら環境問題に取り組む中で、国の姿勢も変えるようにしていくことも求められるという意見も出た。

3Rはリデュース・リユース・リサイクルの推進であるが、どこが大事というより、すべての段階で取り組みことが大切であるとの認識を共有化した。

中村は、今回の助成事業との関連で、堆肥化事業で製造される堆肥（愛称「とよっぴー」）を活用して資源循環の活動を多様に展開しており、農体験事業や地産地消の活動を通じて食育に発展させている状況を提示し、いかに関係者のネットワークが大切かアピールした。

現在、豊中市・伊丹市クリーンランドでは焼却施設の建替えにともない、3Rの推進や環境教育としての施設のあり方などに関する議論が進められていることから、会場からの意見やパネル討論での質問などが聴取され、ごみ行政の実態に関する質問が集中した。

今回のパネル討論は、10月20日に予定する「とよっぴー祭り」に繋ぐ取り組みとして実施され、事務局としては助成活動に即した事例の報告をしながら、生ごみなど有機性資源の有効活用を地域内循環の視点から多くの市民が取り組むことで、持続可能な地域社会が形成される論にたって事務局関係者を派遣したものである。（パネル討論には伊丹市からのパネラーもあったが省略した）

5. 活動の総括

総括にあたって活動状況（再掲）を前述の報告にそってまず整理する。

1) 月毎の実施回数

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
回数	1	1	8	11	3	1	5	12	3	1	2	1

2) 参加者数及びスタッフ数

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
子ども	14	3	410	1013	184	39	240	1190	147	78	382	78
大人	27	3	39	63	12	6	19	804	17	2	13	2
スタッフ	7	3	39	34	7	4	13	67	9	2	4	2

*（9月 710 人「子ども」別途）

3) 対象者

対象	小学校	幼稚園	保育所	子育て	広場	ボーイ	その他
回数	26	3	5	1	3	1	8

4) 活動場所

場所	小学校（出前）	とよっぴー農園	その他
回数	25	23	0

全体総括

実施状況を分類すると、上表のように、月毎では6月及び10月に集中したが、満遍なく一応、毎月実施した。参加状況はやはり実施回数が多くなった月が多い。10月は「とよっぴー祭り」があった関係もある。対象者では小学生が多い。これは学校菜園支援化の関係からでもある。「とよっぴー農園」の場合は、作物栽培面積、栽培期間、参加者のニーズや年齢、植え付けと収穫の時期によって定まることから、一定程度の人数となった。参加者の総数は約4800人、スタッフも約190人に及んだ。

1) 「とよっぴー」農園での成果と課題

農園の土づくり（作物栽培の事前作業）には「みどりの基金」を受けて購入した管理機が威力を発揮した。生育の状況に沿って雑草なども茂ることから、参加者（幼少児や関係する大人）にもできるだけ、自らの手で除草作業をしていただくことにしたが、管理機も併用し、これらの労力が大いに軽減される効果が現われた。財政が潤沢でなく、どうしても人力に頼らざるを得なかったこれまでの状況から脱皮し、機械力のあり難さを改めて痛感した。

さて、「とよっぴー農園」での活動範囲は、対象年齢が大人から幼少児まで幅が広い特徴があり、活動の目的や対象年齢によって取り組みが違おうと言う、多様な農体験事業が実現できたことである。

都市部であり、ほとんどが市街化されていることから、市民が手軽に農に関係する、あるいは作物栽培に関係する土にふれることはほぼ皆無である。とりわけ、若年層（子育て真っ最中の母親など）は、初体験の場合が多く、幼児と一緒に作物の収穫などに関わる様子は、ひと時、子育てを忘れ、自らも作業に没頭する光景を見ると微笑ましい一言と形容できた。

また、農園塾は「市民農園」や家庭菜園などを上手に作物を育てたいと言う、思いで応募していただいた市民である。多少、期待した応募数には満たなかったが、それぞれが塾長（「とよっぴー農園長」）の指導・助言に基づき、栽培のノウハウを学びながら、作物づくりの体験を満喫していただいた。多少、成果物（受益）に期待する面もあるが、それも自分が育てた、関係した野菜であるとの人情も生まれ止む得ないことであったかも知れない。

今回も、活動と天候に悩まされた。さらには、期待される作物の生育と収穫物の量の確保に係る者は気骨が折れた。とりわけ、参加者には見えない影の作業が、活動が広がるにつれ拡大・増加し、現実的にはボランティアの領域を越える状況も現出した。市民活動は公共性の高さに自らの自己到達や充足、自己実現を対比させることもある。その点では、農体験事業は食の荒廃が叫ばれ、国内自給率の問題が喧伝される昨今、社会的使命の側面もあって、助成申請を行った組織としては大いに成果があった事業と総括することができる。

2) 学校菜園支援での成果と課題

(1) 菜園支援の実施対象校の状況（抜粋）

対象学校	菜園支援	環境教育	総括	担当者報告
桜塚小	屋上土づくり サツマイモ	実施(土の話)	<ul style="list-style-type: none"> 積極的対応 児童が能動的 屋上菜園復活 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携 (大根炊き・ヤキイモ)
原田小	土づくり 菜園指導 及び実際に栽培	実施(食の循環)	<ul style="list-style-type: none"> 松崎さん懇切丁寧な対応 先生の姿勢に虚弱 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者未確定 専門家、冊子依拠
北丘小	土づくり サツマイモ	実施(豊中の農業・野菜の話)	<ul style="list-style-type: none"> 校長の対応 全体的に消極的 	<ul style="list-style-type: none"> 菜園広い
少路小	土づくり 稲・野菜	実施(学習・実習)	<ul style="list-style-type: none"> 積極的(校長等) 児童も体験型学習 	<ul style="list-style-type: none"> 後方支援

			・伝統的に農業連携	
豊南小	土づくり サツマイ モ指導	未実施	・担当1人負け ・能動的な動き弱い	
野田小	土づくり 野菜栽培 指導	未実施	・担当先生が処理	・草引き(手伝い)
中豊島小	土づくり	未実施	・積極性皆無	・1学年のみ
東豊台小		実施(稲作の話)	・伝統的に菜園活動	
大池小	—	実施(校内テレビ)	・別途関係	・3学期学習会を予定

(2) 菜園指導の成果と欠陥(基本的な部分)

- 1) 桜塚小では眠っていた屋上菜園が復活、児童を動かし食育の効果があつた。校長等との人的関係が成立、今後の活動連携が可能。
- 2) 原田小では、松崎さんが相当の努力を払い、菜園結果は従前に比べ進歩、ただし、先生等で対応のバラツキがあり、支援と動きとの連携がうまく作用していない。
- 3) 北丘小では、当初モデルケースとして位置づけたが、計画書の作成もできず、また、校長の姿勢も含め、十分な成果に至らなかった。一方的支援の状況であつた。相互関係の未成立。
- 4) 少路小は今回の活動では桜塚小と並んで、初期の目的を達成できる成果を得た学校と言える。校長も含め人間関係の成立に積極的で、児童に対する食育の姿勢も旺盛であつた。
- 5) 豊南小・野田小は当初の土づくりと野菜の栽培助言の指導領域を超えて児童との関係も含め構築できなかつた。
- 6) 中豊島小は組織に便宜的に頼る傾向があり、中止した。
- 7) 東豊台小はもともと菜園での野菜づくりがなされており、他の学校ほど支援の必要性は薄かつたが、食育における学習など、協力的であつた。

(3) まとめ

最初の取り組みとしては関係者には特段、大変であつたと思うが成果があつたものと言える。当初考えた菜園支援と環境学習のリンクでも関係が濃密になつたところでは実施できた。また、児童を積極的に介在させることで食育に発展させることでも、成果を挙げることが幾つかで実現した。

他方、菜園における労力関係では、積極的でない学校も見受けられ、協働(ネ

ットは支援、行動は学校)した活動の狙いは十分できたとは言いがたい。

他方、今回の取り組みによって環境展訪問校(北丘小・桜塚小)が新たに増えるなど副次的な成果を得た。

環境学習では、十分な時間が取れない面もあり、事前に方法の検討と事後の反省を行って次校に備えることも必要である。

(その他、協議の意見を反映させて整理する。)

花と緑のネットワークでは「とよっぴー農園」を活用した農体験事業を、この間、JT(日本たばこKK)のNPO活動助成などを受け、幼少児・大人を対象に実施してきた。この活動は、作物の栽培から収穫まで、自らが関わることで土や土壌中の虫に触れたりして自然の営みを体験する一方、栽培を通じて育(そだ)ちを学ぶとともに、大地への畏敬の念や恵みに感謝する気持ちを育(はぐく)むことを目的とした。

約3年以上の活動を経た教訓として本年は、セブン・イレブンみどりの基金を受けたことを踏まえ「とよっぴー農園」だけでの活動でなく、メンバーが外で出かけることで幼少児との交流と学校・園の菜園での作物栽培支援を通じた環境教育(出前講座)の実践する気運が生まれた。

そのため、当面、小学校に絞って相手先と協議した結果、10小学校から栽培支援の要請があり、学校側と連携を取りながら栽培における適切な支援を立て、児童と一緒に汗を流す計画を基本に実践したところ、作物の生育や情操の面で多くの成果を得ることができた。

菜園支援と環境教育は、メンバーのうちの農業従事者や経験者を中心に行い、対応した回数は延べで25回に及び関係した全児童数は2千人を越えた。